「マニュアル」とは、物事の手順が示されたもので、その種類は様々です。
作業手順書や取扱説明書のような一度作られたらそれ以降引き継がれていくような性質のものもあれば、部品管理や就業管理のような日々データが更新・保存されていくものもあります。
「ダイナミック」とは直訳で躍動的や力動的という意味です。動かせることにより流動的なロジックや、その動きを利用した一覧表などを組み立てられるようになります。

つまり、ダイナミックマニュアルとは、「形式を固定せず」「流動的なロジック」でノウハウや管理、状況対応など様々な種類のマニュアルを作成する事が可能なソフトウェアなのです。

たとえばダイナミックマニュアルひとつで、J-SOX 対応、業務管理フロー作成、部品管理、製品管理・見積り作成，カルテの作成・管理、など様々な用途に対応させることが可能です。

使い所にあわせて「ロジックを自分で作りこむことができる」ころが最大の魅力です。

ダイナミックマニュアルの特徴

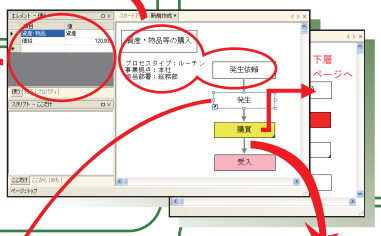
◆ユーザインターフェイス
システムの柔軟性を高めるために、あえて豪華な基本ユーザインターフェイスを持ち合わせていません。
ソフトの操作に慣れていない方でも直感的に操作を行う事が可能となります。

◆図式化によるマニュアル作成
クリック＆ドラッグでボックス（ノード）と矢印（関係線）を作成でき、項目ごとの関連性を簡単に把握する事が可能なフローを作ることができます。

◆ボックス（ノード）
このボックスをダイナミックマニュアルでは「ノード」と呼んでいます。このノードに数値を入力する事でマニュアルを作成します。node は「拠点」や「中継点」という意味ですが、他と関連性を持たないテキストメモの役割も、もたせる事が可能です。

◆エレメント
ノードに任意で複数の情報を設定することができます。設定したエレメントは親ノードから子ノードに受け継がれます。

◆プロパティ
エレメントと同様、ノード固有の情報を持つことができます。
ノードの大きさや位置、各部位の色などの情報を設定することが可能です。

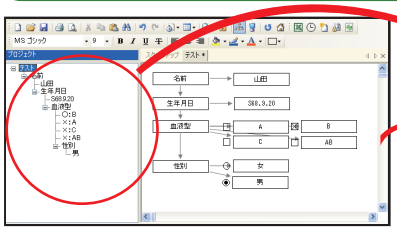


◆階層化について
ダイナミックマニュアルは「階層」の考え方を持っています。フローを構成する各ノードそれぞれに階層を持ち、階層ごとにフローを構成する事が可能です。

この階層を「ページ」と呼び、付属する下層ページは関係線で紐付けられたノードと同様に親子の関係となります。
下層ページを持つ親ノードの情報は、下位ページのノードへ引き継がれるため親ノードを一つのカテゴリとし分類された情報を各階層ごとに管理する事が可能です。
また、階層の数には制限がありませんので複雑な数値や大量の資料を参照しなくてはならない場合にも力を発揮できます。

◆リンクファイル
リンクされたファイルを設定することでノードをダブルクリックすると、それぞれ対応するアプリケーションでファイルを開くことができます。

◆関係線
ノード同士を結びつけます。関係線は一方通行の矢印になっており、出発点が「親」、到達先が「子」の関係を結ぶ役割をもっています。関係線で結ばれることで計算などを行う事ができるようになります。また、「親ノード」が持っている要素を「子ノード」へ引き継ぐことができます。

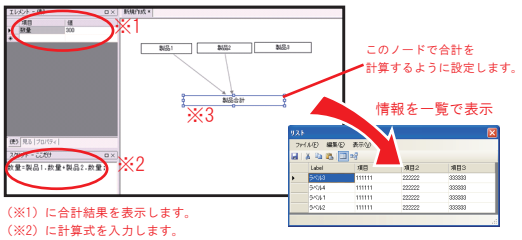


◆プロジェクトツリー
プロジェクトツリーボタン押下するとノードのツリーを表示する「プロジェクトツリー」表示に切り替わります。
この「プロジェクトツリー」表示では、プロジェクトに含まれるすべてのページ階層のノードをツリー形式で表示します。
プロジェクト全体から任意のノードを探す際に便利な表示機能です。

◆チェックボックス（ノード）
ノードにチェックボックスをつけることでプロジェクトツリー表示時にチェックしてるものは「○」していないものは「×」を表示することができます。

◆ラジオボタン（ノード）
ノードにラジオボタンをつけることでプロジェクトツリー表示時にチェックしているものは表示、していないものは非表示にすることができます。

ダイナミックマニュアルの機能



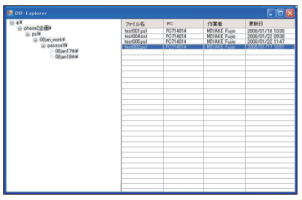
（※1）に合計結果を表示します。
（※2）に計算式を入力します。
（※3）スクリプトによってノードの色を変更することができます。

◆フローへのルール設定
簡単なスクリプト言語での操作が可能で、機能面やビジュアル面での明確化が可能です。スクリプトには大きく分けて「プロパティ」「関数」「集計関数」「日付関数」「構文」が用意されています。
これらのスクリプトを使用する事で、マニュアルの視覚的な明確化とマニュアル作成の幅を広げる事ができます。
関連付けを行った項目同士の計算もでき、また関連付けも可視化されています。

◆リスト表示
エレメントにもたせた情報をリスト（一覧）として表示できます。

◆容易な修正や追加
元々あった状態にこだわらず情報の追加と結びつけができます。

DB 登録処理



▼ DB-Explorer

◆登録プロジェクトの取り出し
DB 登録処理でデータベースに登録したプロジェクトファイルは DB-Explorer で取り出すことができます。
登録されたプロジェクトは、元のディレクトリ位置ごとに管理されています。任意のプロジェクトをダブルクリックすると、データベースからプロジェクトファイルを取り出し表示します。

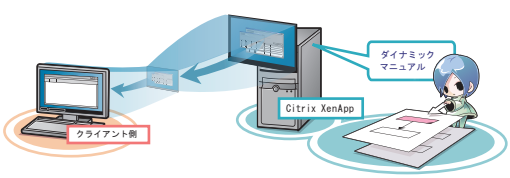
◆プロジェクトファイルを「指示書」「報告書」として、複数のユーザ間でやり取りできる

◆確定した情報を保存、作業記録として保護する
プロジェクトを更新した場合も、上書きせず追記するため登録した情報は記録として保全されます。

Citrix 環境での使用

◆Citrix XenApp の特性について
それぞれのクライアントマシンに各種ソフトウェアを導入せずにサーバに接続するだけで、どこからでもソフトウェアの操作やファイルの参照が行えます。クライアントマシンには画面イメージのみを送信するため通信回線の帯域幅に影響されません。
また、アプリケーションプログラムの改修は Xen App 上のみ行えば全てのクライアントマシンに反映することができるため保守が容易になります。

◆XenApp の特性をダイナミックマニュアルへ
XenApp に保存されている一つのマニュアル（ファイル）を同時に複数台のマシンから参照できます。
集中管理されているので、サーバ上のファイルのメンテナンスのみで常に最新のマニュアルを参照する事が可能となります。
日々更新されるマニュアルをクライアントにその都度送信することで、手間とコストを抑えることができます。



◆サーバー動作環境（CPS 版のみ）

OS	XenApp（Citrix Presentation Server）
Windows Server 2003（SP2 以降）	Citrix Presentation Server 4.0 Citrix Presentation Server 4.5

※どの組合せでも、ロードバランス構成に対応 ※CPS 版は ICA クライアント，9.0 以上に対応

◆クライアント動作環境（スタンドアロン版のみ）

OS
Windows XP Professional(ServicePack2) Windows Vista

◆必要ソフトウェア構成
Microsoft .NET Framework 3.0 がインストールされている必要があります。

◆商標について
本文中に記載されている社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

Powerful and Beautiful PBsystems
株式会社 ピー・ビーシステムズ
〒812-0007 福岡市博多区東比恵 3 丁目 3-24　Tel.092-481-5669　FAX.092-481-2286
http://www.pbsystems.co.jp

Copyright (C) PBsystems, Inc. All rights reserved.